

6 3 3 1 - 1 2 8  
平成 1 6 年 1 2 月 3 日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除所長

平成 1 6 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について  
平成 1 6 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を発表したので送付します。

---

平成 1 6 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名：ピーマン黒枯病（仮称）
- 2 作物名：ピーマン
- 3 病原菌：*Corynespora cassiicola* (Beck.&Curt.) Wei
- 4 発生時期：平成 1 6 年 1 0 月中旬
- 5 発生地域：西都市、新富町、川南町、日南市、北郷町、国富町
- 6 発生概況  
平成 1 6 年 1 0 月中旬、西都市の促成栽培ピーマンの茎葉及び果実に黒褐色の斑点を生じる病害が発生し、宮崎県総合農業試験場生物環境部による診断の結果、ピーマン黒枯病（仮称）であることが同定された。  
その後の調査により、中部地域、児湯地域及び南那珂地域等でも本病害が発生していることが判明した。
- 7 病徴  
葉では初め褐色小斑点が形成され、次第に拡大し不整形で黒褐色輪紋状の病斑となることが多く、斑点病に似るが、葉脈に沿って病斑が広がり、葉が引きつるような症状がみられる。茎では黒褐色の斑点が形成され、しばしば黒色ピロード状の菌叢が認められる。  
また果実、果梗にも黒褐色の斑点を生じることがある。
- 8 病原菌の形態及び生態  
糸状菌の 1 種で不完全菌類に属し、分生子は長い棍棒状で分生子柄の先端から単生もしくは連生する。生態や伝染環については詳細は不明であり、調査中であるが、被害茎葉上に形成される分生子により伝染し、高温、多湿条件で多発生するものと思われる。
- 9 防除対策  
ほ場内が多湿条件にならないよう、排水を良好にするとともにマルチなどを行う。被害茎葉、果実は伝染源となるのでほ場外に持ち出し、適切に処理する。また、本病に対する登録農薬はないが、ピーマンの他の病害に登録のある T P N 水和剤、イプロジオン水和剤、同くん煙剤の防除効果が期待される。